

Sun Java™ System Instant Messaging リリースノート (Microsoft Windows 版)

バージョン 7 2005Q4

Part No. 819-5787

このリリースノートには、Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q4 (Windows 版) のリリース時点で判明している重要な情報が記載されています。既知の問題点と制限事項、およびその他の情報が説明されています。Instant Messaging 7 をお使いになる前に、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートの最新バージョンは、Sun Java System マニュアル Web サイト (<http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys.05q4#hic>) で参照できます。ソフトウェアのインストールおよび設定前、さらにそのあともこの Web サイトを定期的に参照して、最新のリリースノートや製品マニュアルを確認してください。

このリリースノートは、次の節で構成されています。

- リリースノートの改訂履歴
- Instant Messaging 7 2005Q4 の概要
- このリリースで修正されたバグ
- 重要な情報
- 既知の問題点と制限事項
- 問題の報告とフィードバックの方法
- その他の情報

このリリースノートでは、サードパーティーの URL を参照して、追加の関連情報を提供しています。

注 Sun は、このマニュアルに記載されているサードパーティーの Web サイトが利用可能かどうかについて責任を負いません。また、これらの Web サイトまたはリソースで利用可能なコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料を保証したり、これらに対して責任を負ったりすることはありません。さらに、これらの Web サイトまたはリソース上で、またはこれらを通して利用可能なコンテンツ、商品、またはサービスにより生じた、またはこれらを使用または信用したことに関連する実際の、または申し立てられた損害や損失に対しても責任を負いません。

リリースノートの改訂履歴

表 1 改訂履歴

日付	変更の説明
2006年2月	商用リリース
2005年11月	ベータリリース

Instant Messaging 7 2005Q4 の概要

Sun Java System Instant Messaging を使用すると、セキュリティが確保され、機能性の高いメッセージ交換をリアルタイムに行うことができるため、コミュニティーのユーザーが迅速かつ安全に通信および共同作業を行うことができます。この製品は、メッセージング機能と、会議室、アラート、ニュース、調査、およびファイル転送機能を一体化することで、共同作業を行う優れた環境を提供します。この製品は、LDAP、Sun Java™ System Access Manager、または Sun Java™ System Portal Server で管理された既存のコミュニティーを活用します。

ここでは、次の内容について説明します。

- [Instant Messaging 7 2005Q4 の新機能](#)
- [要件](#)

Instant Messaging 7 2005Q4 の新機能

ここでは、次の内容について説明します。

- [インストール](#)
- [要件](#)

インストール

『Instant Messaging インストールガイド』は廃止されました。はじめて Instant Messaging 7 2005Q4 をインストールする場合は、『Sun Java System Enterprise System インストールガイド』のインストール手順を参照してください。

Access Manager を Instant Messaging とともに使用する場合、Access Manager を互換モードで設定する必要があります。このバージョンの Instant Messaging は、「機能が拡張された (バージョン 7.x スタイルの)」Access Manager と互換性がありません。

要件

この節では、Instant Messaging ソフトウェアのインストール要件について説明します。インストールする前に、最小限のハードウェア要件およびオペレーティングシステム要件を満たしていることを確認してください。サーバーとクライアントの両方で、JRE 1.4 がサポートされています。

Instant Messaging ソフトウェアのこのリリースに必要なハードウェアとソフトウェアは、次のとおりです。

- [サーバーのオペレーティングシステム要件](#)
- [サーバーのソフトウェア要件](#)
- [サーバーのハードウェア要件](#)
- [クライアントのオペレーティングシステム要件](#)
- [クライアントのソフトウェア要件](#)
- [クライアントのハードウェア要件](#)

サーバーのオペレーティングシステム要件

このリリースの Sun Java System Instant Messaging には、次のプラットフォームが必要です。

- Windows 2000 Service Pack 4
- Windows 2003 Enterprise Server
- Windows XP
- Windows NT

サーバーのソフトウェア要件

このバージョンの Instant Messaging は、次のバージョンのほかのサーバーソフトウェアと互換性があります。

- Sun Java System Access Manager 7 2005Q4
- Sun Java System Application Server Enterprise Edition 8.1 2005Q4
- Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4
- Sun Java System Directory Server 5 2005Q4
- Sun Java System Messaging Server 6 2005Q4
- Sun Java System Portal Server 6 2005Q4
- Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4 SP5

サーバーのハードウェア要件

Sun Java System Instant Messaging インストール時の最小限のハードウェア要件は、次のとおりです。

- ソフトウェア用として約 300M バイトの空きディスク領域。
- ユーザーごとに約 5K バイトのディスク領域。
- 512M バイト以上の RAM。必要な RAM 容量は、並行して実行されるクライアント接続の数に応じて変化します。

クライアントのオペレーティングシステム要件

このリリースでは、次のクライアントプラットフォームがサポートされます。

- Microsoft Windows 98 以降 (ME、NT (SP 6a)、2000、XP、2003)
- Solaris 8、9、および 10
- Mac OS X 10.1 以降
- Red Hat Linux 7.2 以降

クライアントのソフトウェア要件

Microsoft Windows 上では、次のブラウザの Java Plug-in を使用して Instant Messenger を実行できません。

- Netscape 4.7x、7 以降
- Mozilla 1.2 以降
- Internet Explorer 5.0 以降

クライアントマシンにバージョン 1.4 以降の Java がインストールされている場合、そのままの状態でも Java Plug-in および Java Web Start を使用できます。Netscape™ Navigator v7 および最近のバージョンの Mozilla™ ブラウザには、バージョン 1.4 以上の Java が含まれています。Internet Explorer には最新版の Java は含まれていません。Java 1.4 をインストールしているクライアントで問題が発生した場合は、JDK™ 5.0 にアップグレードしてください。

クライアントマシンにバージョン 1.4 以上の Java がインストールされていない場合、Java Web Start をインストールする必要があります。Java v1.4 は、次の場所からダウンロードし、インストールすることができます。

<http://java.sun.com/j2se>

Java Web Start は、次の場所からダウンロードし、インストールすることができます。

<http://www.java.sun.com/products/javawebstart>

HTML リンクは、Instant Messenger を通してのやりとりが可能であり、またクリックすることで Instant Messenger から起動できます。リンクをクリックすると、Instant Messenger はブラウザを起動します。次の表に、サポートされるオペレーティングシステムとブラウザの組み合わせを示します。

表 2 サポートされるクライアントのオペレーティングシステムとブラウザの組み合わせ

オペレーティングシステム	ブラウザ
Windows 98/ME/NT/2000/XP/2003	制限なし
Solaris	Netscape Communicator 4.7x 以降
Red Hat Linux 7.x	Netscape 4.7
Red Hat Linux 8.0 以降	Mozilla 1.2 以降
Mac OS X	制限なし

クライアントのハードウェア要件

Instant Messenger は、大半のプラットフォーム上で 20 ~ 40M バイトのメモリーを消費します。メモリー要件を見積もる際には、クライアントマシン上で使用するほかのアプリケーション (オペレーティングシステムを含む) の要件も考慮してください。Instant Messenger およびほかのアプリケーションを快適に使用するためには、ほとんどの場合、128M バイト以上の RAM を搭載することが推奨されています。メモリー消費量の多いオペレーティングシステムを使用する場合、より多くのメモリーが必要になります。

このリリースで修正されたバグ

表 3 では、この Instant Messaging 7 2005Q4 リリースで修正された問題について説明しています。

表 3 Instant Messaging 7 2005Q4 で修正されたバグ

問題番号	説明
5076386	エンドユーザーが有効化された (使用中の) プライバシープロファイルを削除した場合、Instant Messenger はそのプライバシープロファイルが削除された旨を表示しているにもかかわらず、サーバーでは削除されたプライバシープロファイルの適用を続けます。
6189338	これまでは、日本語などの英語以外のロケールでは、会議室へのアクセス権を READ に変更することができませんでした。代わりに、保存すると、アクセス権が NONE に変更されていました。この問題は発生しなくなりました。

表 3 Instant Messaging 7 2005Q4 で修正されたバグ (続き)

6190366	ユーザーを連絡先一覧に追加したとき、Instant Messenger クライアントのメインウィンドウで「会議室」タブがフォーカスされなくなりました。
6198525, 6207036	会議室とニュースチャンネルでは、特別なアクセス権を付与する前に、ユーザーに対してデフォルトのアクセス権を設定する必要があります。
6206530	これまでは、フランス語にローカライズされたリソースファイルを使用していた場合、リソースファイルのアポストロフィにエスケープ文字を追加する必要がありました。この手順は不要になりました。
6211624	日本語で configure ユーティリティの実行中に、画面要素のタイトルの一部が表示されませんでした。
6212843	マルチバイト文字を含む電子メールのアラートを読むことができるようになりました。
6215222	LDAP ディレクトリでユーザーエントリに加えた変更が、キャッシュを再確認するまで、Instant Messaging に反映されません。デフォルトでは、キャッシュの再確認は 10 分ごと、または Instant Messaging サーバーが起動するたびに発生します。回避方法 : Instant Messaging サーバーを再起動するか、キャッシュ有効期限間隔をより適切な値に設定します。この間隔を変更するには、 <code>iim.policy.cache.validity</code> パラメータとその設定値を <code>iim.conf</code> に追加します。

重要な情報

この節では、次のトピックについて説明します。

- [インストール上の注意](#)
- [互換性の問題](#)
- [マニュアルの更新](#)
- [障害者のためのアクセシビリティ機能](#)

インストール上の注意

Instant Messaging の設定時に、Sun Java System Identity Server を使用してポリシーを保存するように選択すると、次のポリシーが作成されます。

- Instant Messaging サービスおよび Presence サービスの管理権限
- Instant Messaging の設定変更権限
- Instant Messaging 会議室の管理権限

パッチ要件についての情報

次の表は、整合パッチの番号と最低バージョンを記載しています。この節で参照しているパッチはすべて、アップグレードに必要な最低バージョンです。このリリースノートが出版されてから、新しいバージョンのパッチが発行されている可能性もあります。新しいバージョンには、パッチの最後に別のバージョン番号が表記してあります。たとえば、123456-04 は 123456-02 の新しいバージョンですが、同じパッチ ID です。一覧に示されている各パッチに固有の注意事項については、それぞれに付属の README ファイルを参照してください。

パッチを入手するには、<http://sunsolve.sun.com> にアクセスしてください。

表 4 Windows に必要な Instant Messaging 7 2005Q4 整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
121523-01	Windows (MSI): 共有コンポーネント
121528-01	Windows (MSI): Sun Java™ System Application Server 8.1 2005Q2
121524-01	Windows (MSI): Sun Java™ System Web Server 6.1 SP5 2005Q4
121530-01	Windows (MSI): Sun Java™ System Instant Messaging 7 2005Q4

Instant Messaging の JES3 から JES4 へのアップグレード手順の詳細については、<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-4461> にある『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Upgrade Guide for Microsoft Windows』を参照してください。

互換性の問題

表 5 に、Instant Messaging 7 2005Q4 と旧バージョンとの既知の非互換性の一覧を示します。

表 5 Instant Messaging 7 2005Q4 の互換性の問題

非互換性	影響	コメント
Instant Messaging 7 は、Portal Server および Messaging Server の 2004Q2 バージョンと互換性がありません。	Instant Messaging 7 をアップグレードする際に、Portal Server と Messaging Server をアップグレードします。	
Instant Messaging 7 は、Access Manager の 7.x (2005 Q4) バージョンと互換性がありません。		旧バージョンモードで Access Manager を設定します。
プロトコルが変更されたため、Instant Messaging 7 2005Q4 サーバーは、連携配備内の古いバージョンのサーバーと通信できません。	Instant Messaging の連携配備サイトは、すべてのサーバーをアップグレードする必要があります。サーバーのアップグレードをしない既存の配備は、旧バージョンのプロトコルの実装を使用するように、コラボレーションセッションのファクトリオブジェクトのプロパティを明示的に設定する必要があります。	サーバー間の通信不能時間が最小限で済むよう、アップグレードを調整する必要があります。
クライアント - サーバー間の通信	プロトコルが変更されたため、古いバージョンのクライアントは新しいバージョンのサーバーと通信できず、その逆も同様です。	このサイトは、クライアントとサーバーの両方を同時にアップグレードする必要があります。
Sun Java System Instant Messaging 6 2004Q2 は、Sun Java Enterprise System 2005Q4 に付属する共有コンポーネントと互換性がありません。	すべての Instant Messaging コンポーネントをアップグレードする必要があります。この非互換性の詳細については、Sun Java System Access Manager のリリースノートを参照してください。	
現在は、Legacy Instant Messaging/Presence プロトコルの Instant Messaging SDK 実装がバンドルされています。	デフォルトでは、Instant Messaging SDK API は XMPP プロトコルベースの実装を使用します。アプリケーションは、旧バージョンのプロトコルの実装を使用するように、コラボレーションセッションのファクトリオブジェクトのプロパティを明示的に設定する必要があります。	
SDK コンポーネントに追加 jar ファイルが含まれるようになりました。Instant Messaging SDK が JSO (JABBER Stream Objects) ライブラリを使用します。	XMPP を利用するためには、Instant Messaging SDK を使用する古いアプリケーションのクラスパスを変更する必要があります。	

マニュアルの更新

ここでは、マニュアルの変更点と内容訂正についての情報を示します。説明する内容は次のとおりです。

- [マニュアルセット](#)
- [管理ガイド](#)
- [XMPP トラフィック用の追加ログインパラメータ](#)

マニュアルセット

Instant Messaging の 2005Q4 リリースでは、次のバージョンの管理ガイドを使用します。

『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1 管理ガイド』
(<http://docs.sun.com/source/819-1487?l=ja>)

管理ガイド

ここでは、『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1 管理ガイド』の変更内容の一覧を示します。

iim_agent.enable パラメータのデフォルト値の変更

(バグ番号: 5102072) このリリースでは、`iim_agent.enable` パラメータのデフォルト値が `false` に変更されています。この変更が管理ガイドに反映されていません。

iim.conf からのパラメータ削除

`iim_server.msg_archive.auto` 設定パラメータはサポートされなくなりましたが、管理ガイドのパラメーター一覧にはまだこのパラメータについての記述が残っています。

Instant Messenger の Java Plug-in 用アーカイブ制御コンポーネントの有効化

(バグ ID: 6244099) 管理ガイドに記載されている、Instant Messenger の Java Plug-in 用アーカイブ制御コンポーネントを有効化するための手順が正しくありません。代わりに、[9 ページの「HTML アプレットページと pluginLaunch.jsp ファイルの変更点」](#) で説明されている手順を使用してください。

HTML アプレットページと pluginLaunch.jsp ファイルの変更点

Instant Messenger の起動に Java Plug-in を使用している場合、Instant Messenger のアーカイブ制御機能を有効にするために次の手順を実行してください。

▶ Instant Messenger の Java Plug-in 用アーカイブ制御を有効にするには

1. Instant Messenger のマニュアルルートディレクトリに移動し、`im.html` および `imssl.html` ファイルを探します。

デフォルトでは、これらのファイルは次の場所にインストールされます。

```
<install-dir>PortalServer\desktop\default\IMProvider
```

2. テキストエディタで .html ファイルを開きます。
3. 必要に応じて、次の行を追加または編集します。

```
<PARAM NAME="archive_control" VALUE="true" />
<EMBED archive_control=true;/>
```

アーカイブされたメッセージのデフォルト以外の Portal Server 検索データベースへの格納
 手順中にエラーが発生します。具体的には、次のディレクトリ表記が誤っています。

```
<install-dir>%portalserver%desktop%default%IMProvider%
```

正しい表記は次のとおりです。

```
<install-dir>%portalserver%desktop%default_locale%IMProvider%
```

次に例を示します。

```
<install-dir>%portalserver%desktop%default_ja%IMProvider%
```

新規ユーザー登録を許可するためのサーバーの設定

新規ユーザー登録機能についての説明が管理ガイドでは不完全です。Instant Messenger のカスタマイズに加えて、新規ユーザー登録を許可するようにサーバーを設定する必要があります。

これを行うには、iim.conf に 4 つの設定パラメータを追加してから、サーバー設定を更新する必要があります。表 6 は設定パラメータの説明です。

表 6 新規ユーザー登録に関するサーバー設定パラメータ

パラメータ	説明
iim.register.enable	TRUE に設定すると、サーバーは新しい Instant Messaging エンドユーザーが Instant Messenger を使って自分を登録する (自分自身をディレクトリに追加する) ことを許可します。
iim_ldap.register.enable	TRUE に設定すると、サーバーは新しい Instant Messaging エンドユーザーが Instant Messenger を使って自分を登録する (自分自身をディレクトリに追加する) ことを許可します。
iim_ldap.register.basedn	自己登録が有効な場合、このパラメータの値は、ユーザーのエントリが格納される LDAP ディレクトリ内の位置の DN です。次に例を示します。 "ou=people,dc=siroe,dc=com"
iim_ldap.register.domain	LDAP サーバーのドメイン。次に例を示します。 directory.siroe.com

▶ **新規ユーザー登録を許可するようにサーバーを設定するには**

1. テキストエディタで `iim.conf` を開きます。
2. 表 6 の説明に従って、設定パラメータと適切な値を追加します。
3. `iim.conf` を保存して閉じます。
4. サーバーを再起動します。

XMPP トラフィック用の追加ロギングパラメータ

(問題番号: 5070998) このリリースでは、XMPP メッセージを収集して独立したログファイルに保存するためのロギングパラメータが追加されていますが、マニュアルにはこのパラメータについての説明がありません。

▶ **XMPP メッセージログを作成するようにサーバーを設定するには**

1. `iim.conf` を開きます。

デフォルトでは、`iim.conf` ファイルは次の設定ディレクトリにインストールされます。

```
<install-dir>%Instant Messaging%config%iim.conf
```

Instant Messaging の複数のインスタンスを作成した場合、`/default` ディレクトリの名前はインスタンスによって異なります。

2. コメント文字を削除して、次の行を有効にします。

```
iim.log4j.config=log4j.conf
```

この行が存在しない場合、追加します。

3. `iim.conf` を保存して閉じます。
4. `log4j.conf` という名前のファイルを作成し、設定ディレクトリに保存します。
5. `log4j.conf` に次の内容を追加します。

```
log4j.logger.xmppd=INFO, A1
```

```
# DEFAULT TO RollingFileAppender
```

```
log4j.appender.A1=org.apache.log4j.RollingFileAppender
```

```
log4j.appender.A1.file=${logdir}/xmppd.log
```

```
log4j.appender.A1.append=true
```

```
log4j.appender.A1.maxBackupIndex=7
```

```
log4j.appender.A1.maxFileSize=5mb
```

```
# More example appenders..
```

```
# Straight to console..
```

重要な情報

```
# log4j.appender.A1=org.apache.log4j.ConsoleAppender
# log4j.appender.A1.ImmediateFlush=true
# Rollover at midnight..
# log4j.appender.A1=org.apache.log4j.DailyRollingFileAppender
# log4j.appender.A1.DatePattern='.'yyyy-MM-dd
# log4j.appender.A1.file=${logdir}/xmppd.log
# log4j.appender.A1.ImmediateFlush=true
# log4j.appender.A1.append=true
# Send to SMTP..
# log4j.appender.A1=org.apache.log4j.SMTPAppender

# PATTERN LAYOUT AND OPTIONS

# DEFAULT TO PatternLayout
log4j.appender.A1.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
# For full dates..
log4j.appender.A1.layout.ConversionPattern=[%d{DATE}] %-5p %c [%t] %m%n
# IM traditional output format..
#log4j.appender.A1.layout.ConversionPattern=%d{HH:mm:ss,SSS} %-5p %c [%t] %m%n
# More example layouts
# XMLLayout for chainsaw consumption
# log4j.appender.A1.layout=org.apache.log4j.xml.XMLLayout
# TTCCLayout for NDC information
# log4j.appender.A1.layout=org.apache.log4j.xml.TTCCLayout
# log4j.appender.A1.layout.DateFormat=ISO8601
# log4j.appender.A1.layout.TimeZoneID=GMT-8:00
# log4j.appender.A1.layout.CategoryPrefixing=false
# log4j.appender.A1.layout.ThreadPrinting=false
# log4j.appender.A1.layout.ContextPrinting=false
```

```
# Now we list logger/appender/layout for the other default loggers, but only
the defaults..
```

```
log4j.logger.iim_wd=ERROR, A2
log4j.appender.A2=org.apache.log4j.RollingFileAppender
log4j.appender.A2.file=${logdir}/iim_wd.log
log4j.appender.A2.append=true
log4j.appender.A2.maxBackupIndex=7
log4j.appender.A2.maxFileSize=5mb
log4j.appender.A2.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
log4j.appender.A2.layout.ConversionPattern=[%d{DATE}] %-5p %c [%t] %m%n
```

```
# For separate xmpp traffic log, disabled by default.
```

```
log4j.logger.xmppd.xfer=DEBUG, A3
#log4j.appender.A3=org.apache.log4j.varia.NullAppender
# Select next block instead of previous line to enable separate transfer log
log4j.appender.A3=org.apache.log4j.RollingFileAppender
# log4j.appender.A3.file=${logdir}/xfer.log
# log4j.appender.A3.append=true
# log4j.appender.A3.maxBackupIndex=7
# log4j.appender.A3.maxFileSize=5mb
# log4j.appender.A3.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
# # Note, simpler default output than above 3 loggers:
# log4j.appender.A3.layout.ConversionPattern=[%d{DATE}] %-5p %c [%t] %m%n
```

```
log4j.logger.agent-calendar=ERROR, A4
log4j.appender.A4=org.apache.log4j.RollingFileAppender
log4j.appender.A4.file=${logdir}/agent-calendar.log
log4j.appender.A4.append=true
log4j.appender.A4.maxBackupIndex=7
log4j.appender.A4.maxFileSize=5mb
log4j.appender.A4.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
```

```
log4j.appender.A4.layout.ConversionPattern=[%d{DATE}] %-5p %c [%t] %m%n
```

```
log4j.logger.net.outer_planes.jso.BasicStream=OFF, A5
```

```
log4j.appender.A5=org.apache.log4j.RollingFileAppender
```

```
log4j.appender.A5.file=${logdir}/jso.log
```

```
log4j.appender.A5.append=true
```

```
log4j.appender.A5.maxBackupIndex=7
```

```
log4j.appender.A5.maxFileSize=5mb
```

```
log4j.appender.A5.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
```

```
log4j.appender.A5.layout.ConversionPattern=[%d{DATE}] %-5p %c [%t] %m%n
```

6. log4j.conf を保存して閉じます。

7. サーバーを再起動します。

```
<install-dir>%Instant Messaging%bin%xmppd -stop
```

```
<install-dir>%Instant Messaging%bin%xmppd -start
```

障害者のためのアクセシビリティ機能

このメディアの出版以降にリリースされたアクセシビリティ機能を入手するには、Sun に米国リハビリテーション法 508 条に関する製品評価資料を請求し、その内容を確認して、どのバージョンが、アクセシビリティに対応したソリューションを配備するためにもっとも適しているかを特定してください。更新バージョンのアプリケーションは、

<http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html> にあります。

アクセシビリティに対する Sun のコミットメントについては、<http://sun.com/access> を参照してください。

既知の問題点と制限事項

この節では、Instant Messaging 7 2005Q4 (Windows 版) の既知の問題および制限事項について説明します。

表 7 既知の問題点と制限事項

バグ ID	概要
6293991	インストールする製品として Instant Messaging、Messaging Server、および Calendar Server を選択する場合、ActivePerl 5.8.3 がシステムに事前にインストールされている必要があります。
4609599	マルチバイト文字のフォントのカスタマイズを使用するためには、まずテキストを入力してから、そのテキストを強調表示してフォントのカスタマイズを適用する必要があります。
4806791	画像の埋め込まれたアラートが、正確に表示されません。 受信者が画像の埋め込まれたアラートを受信した場合、画像が中央に表示されず、添付のテキストのフォント情報が失われます。
4841572	カスタマイズされたステータスが削除できません。 回避方法： 最終的には、最も使用頻度の低いステータスが削除されます。すぐにそのステータスを削除するには、新規のカスタマイズされたステータスを 5 つ追加します。一番古いステータスがなくなります。
4852882	カレンダーサーバーのアラームタイプが text/xml に設定されている (caldb.serveralarms.contenttype = "text/xml") 場合、 Instant Messenger の「タスク期限のリマインダー」アラートウィンドウの「リマインダー」フィールドが空白になります。 回避方法： このフィールドを "text/calendar" に設定します。
4858320	ある会議への適切な参加権限を持たないユーザーをその会議に招待した場合、ソフトウェアが意図しない動作をします。そのユーザーは実際には招待を受け取っていないのに、そのユーザーが招待されたかのように表示されます。
4860906	特定の gb18030 文字を使用すると、conf_room/news が作成できません。 会議とニュースの ACL ファイル名は Instant Messenger から提供された名前を使って記述されるため、それらの名前にチベット文字またはアラビア文字が含まれていた場合、ACL の作成時に問題が発生します。

表 7 既知の問題点と制限事項 (続き)

バグ ID	概要
4871150	一部のロケールで Instant Messenger に印刷エラーが発生します。 回避方法： 印刷するテキストを、印刷可能な別のアプリケーションにカット&ペーストします。
4922347	チャットルーム内で、読み取り専用ユーザーと完全な権限を持つユーザーが区別できません。このため、読み取り専用権限しか持たないユーザーに別のユーザーがメッセージを送信しようとした場合、混乱が生じる可能性があります。読み取り専用ユーザーは、メッセージを受け取れません。
4929247	モデレータがあるユーザーに対して Presence アクセスを拒否すると、そのユーザーはメッセージを送信できません。
4929295	複数の Instant Messaging ポリシーがユーザーに適用されている場合、ポリシー間で矛盾が生じる可能性があります。たとえば、「一般」と「会議室管理者」のポリシーが 1 人のユーザーに適用されている場合、このユーザーは会議室を管理できません。 回避方法： 「Regular User」ポリシーを編集し、「会議室の管理」チェックボックスを選択解除します。こうすることにより、2 つのポリシーが矛盾しなくなります。
4944558	「アラート」ウィンドウの「Web 表示」タブに、Web ページが正しく表示されない場合があります。これは、 Java HTML レンダリングの制限です。 回避方法： 「Web 表示」タブの代わりに「メッセージ作成」タブを使用して URL を送信してください。
4960933	Microsoft Windows のタスクバーのメニューラベルが、マルチバイト文字を使用する一部のロケールでは正しく表示されません。メニュー機能への影響はありません。
4978293	zh_HK ロケールで、 Instant Messenger が英語で表示されます。 回避方法： ログインに zh_HK ロケールを使用するマシン上で繁体字中国語 (zh_TW) のメッセージを表示するためには、zh_TW へのシンボリックリンクを作成する必要があります。
5042884	アーカイブのプロバイダの問題により、アーカイブされたデータをエンドユーザーが検索結果で閲覧できてしまいます。

表 7 既知の問題点と制限事項 (続き)

バグ ID	概要
5050973	ニュースメッセージのプロパティが、ニュースメッセージと一緒に送信されません。その結果、次のクライアント機能が影響を受ける可能性があります。件名がニュースメッセージと一緒に表示されません。ニュースメッセージで改行ができないため、全体が判読不能になっています。ニュースメッセージのフォーマットが失われる可能性があります。添付ファイルを送信できません。画像を送信できません。
5051299	サーバー間の通信で、エンドユーザーに対してニュースチャンネルのアクセス権が機能しない場合があります。たとえば、アクセス権が NONE に設定されているユーザーが READ アクセス権を獲得することができます。
5051369	サーバー間の通信で、別のサーバーでニュースチャンネルに登録しているエンドユーザーが、ニュースチャンネルのメッセージ作成者とチャットできません。
5051371	サーバー間の通信で、 NONE 、 READ 、 WRITE などのエンドユーザーのアクセス権が、会議室で正しく機能しません。
5065241、5080586	Instant Messenger がサーバーに接続されていないのに、ステータスを変更するオプションが表示されます。接続されていない状態でステータスに加えられた変更は、有効になりません。
5071025	Instant Messenger で新規の連絡先グループを作成し、そのグループに連絡先を割り当てないで、ログアウトして再度ログインすると、この連絡先グループが連絡先一覧に表示されなくなります。 回避方法： Instant Messenger からログアウトする前に、連絡先グループに連絡先を追加します。
5082579	ネットワーク接続が切断されたあとも、ユーザーステータスがオンラインのままになります。
5087303	エンドユーザーが最後に正常にログインしたサーバーが、 Instant Messenger の「ログイン」ダイアログボックスに表示されない場合があります。この動作はユーザー名の動作と矛盾します。ユーザー名の場合は、最後に正常に使用されたユーザー名が、「ログイン」ダイアログボックスに表示されます。 回避方法： 1. 「ログイン」ダイアログボックスで、「詳細」をクリックします。 2. 「サーバー」ドロップダウンリストから該当するサーバーを選択します。
5090649	「パスワード」フィールドを要求しないサーバーに新規ユーザーを登録できません。これは、サーバーでは「パスワード」フィールドを必須フィールドと見なしていても、 Instant Messenger では必須フィールドと見なしているためです。

表 7 既知の問題点と制限事項 (続き)

バグ ID	概要
5104840	ユーザーが「設定」ダイアログボックスの「プライバシー」タブで行った変更は、「了解」をクリックしたときではなく、変更が行われたときに保存されます。このため、このタブで変更を行ったあとで「取消し」をクリックしても、変更が保存されます。
6186465	Instant Messenger でテキストをカット&ペーストすると、余計なキャリッジリターンが追加される場合があります。
6189148	Sun Java System Access Manager を Instant Messaging サーバーとは別のホストにインストールする場合、configure ユーティリティを実行したあとに、imServices_*.properties ファイルを Instant Messaging サーバーホストから Access Manager ホストへ手動でコピーする必要があります。 これを行うには次の手順に従います。 <ol style="list-style-type: none"> Instant Messaging ホスト上の imService_*.properties ファイルを探します。デフォルトでは、これらのファイルは <install-dir>%Instant Messaging%\lib ディレクトリの下にあります。 これらのファイルを、Sun Java System Access Manager ホストの locale ディレクトリにコピーします。デフォルトでは、このディレクトリは <install-dir>%AccessManager%\locale です。
6195180	「ニュース」ウィンドウに件名と送信者が表示されない場合があります。
6205657	すでに会議室に参加しているユーザーに対してアクセス権を変更しても、その変更は、「会議室」ウィンドウを再起動するまで有効になりません。 回避方法： 「会議室」ウィンドウを閉じて再起動し、アクセス権を更新します。
6213223、6217766	メッセージをニュースチャンネルに投稿して、投稿したメッセージを表示せずにログアウトすると、メッセージが失われたように見えます。メッセージは実際には存在しており、表示できないだけです。 回避方法： Instant Messenger からログアウトする前に、ニュースチャンネルに投稿したメッセージをすべて表示するか、そのニュースチャンネルを登録解除して、もう一度登録します。
6244099	管理ガイドで、Instant Messenger の Java Plug-in 用アーカイブ管理コンポーネントの有効化についての不要な記述があります。このコンポーネントはこのリリースには存在しません。

表 7 既知の問題点と制限事項 (続き)

バグ ID	概要
6282887	<p>Windows 2000 で、ローカライズされたバージョンの Instant Messenger を使用しているとき、フォルダのポップアップメニューの先頭項目が正しく表示されません。正しい表示は「閉じる」です。</p> <p>回避方法: クライアントシステムで、JDK 1.5 (5.0) の代わりに JDK 1.4.2 を使用します。</p>
6291159	<p>Instant Messenger がサーバーから切断するまでの経過時間が、<code>iim.conf</code> の <code>iim_server.clienttimeout</code> パラメータに設定された値と異なります。</p> <p>回避方法: <code>-D</code> オプションを使って次のシステムプロパティを指定します。</p> <pre>com.sun.im.service.xmpp.session.keepaliveinterval</pre> <p>この値には、Instant Messenger がサーバーにバイトデータを送信開始するまでの秒数を設定します。これらのバイトデータは、タイムアウトとそれに続く切断を回避することのみを目的として使用されます。</p>
6302273	<p>サーバーから切断された Instant Messaging が、再接続時に正しく機能しない場合があります。たとえば、Presence 情報が正しく表示されない場合や会議室が機能しない場合があります。</p> <p>回避方法: 切断が発生したあとで会議室に参加するには、「会議室」タブで会議室をダブルクリックする代わりにチャットアイコンをクリックします。また、SunSolve Online (http://sunsolve.sun.com/) から製品パッチをダウンロードできます。</p>
6358883	<p>Windows メニューがすべてのサービスを開始しません。</p> <p>回避方法: サービスの開始に <code>imadmin.bat</code> を使わないようにします。「サービス」コントロールパネルから、または「<code>multiplexorservice.exe -start</code>」、「<code>watchdogservice.exe -start</code>」、「<code>xmppd.exe -start</code>」のいずれかを使用してサービスを開始するようにします。</p> <p>サービスを停止するには、「<code>multiplexorservice.exe -stop</code>」、「<code>watchdogservice.exe -stop</code>」、「<code>xmppd.exe -stop</code>」のいずれかを使用するか、「サービス」コントロールパネルから停止します。</p>
6374320	<p>Instant Messaging を Portal Server と統合するために、<code>jar</code> ファイルを Web コンテナ のクラスパスに追加する必要があります。</p> <p>回避方法:</p> <p>Portal Server が Web Server に配備される場合、<code>server.xml</code> 内のクラスパスを編集します。<code>imservice.jar</code>、<code>jso.jar</code>、および <code>xp.jar</code> のパスをクラスパスに追加します。Web Server を再起動します。</p> <p>Portal Server が Application Server に配備される場合、<code>domain.xml</code> 内のクラスパスを編集します。<code>imservice.jar</code>、<code>jso.jar</code>、および <code>xp.jar</code> のパスをクラスパスに追加します。Application Server を再起動します。</p>

再配布可能なファイル

Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q4 には、再配布可能なファイルは含まれていません。

問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java System Instant Messaging で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法で Sun カスタマサポートにご連絡ください。

- Sun ソフトウェアサポートのサービスオンライン
<http://www.sun.com/service/sunone/software>

このサイトには、保守プログラムやサポート連絡先の電話番号へのリンクに加え、Knowledge Base、オンラインサポートセンター、Product Tracker へのリンクがあります。

- 保守契約に基づいて提供される電話番号。

問題を解決する上で最善のサポートが受けられるようにするため、サポートに連絡するときは次の情報を用意してください。

- 問題が発生した場所および操作に与える影響を含む、問題の説明
- マシンの種類、オペレーティングシステムのバージョン、および製品のバージョン (問題に関係するパッチおよびその他のソフトウェアを含む)
- 問題が発生するまでに使用していた詳細な手順または方法
- エラーログまたはコアダンプ

コメントの送付先

Sun では、マニュアルの品質向上のために、お客様からのコメントや提案をお待ちしています。

コメントをお送りになる場合は、<http://docs.sun.com> にアクセスして「コメントの送信」をクリックしてください。オンラインフォームで、マニュアルのタイトルと Part No. を入力します。Part No. はマニュアルのタイトルページまたは最上部に記載されている 7 桁または 9 桁の番号です。たとえば、本書のタイトルは『Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q4 リリースノート (Microsoft Windows 版)』で、Part No. は 819-5787 です。

その他の情報

次の Web サイトには、役立つ Sun Java System 情報があります。

- Instant Messaging のマニュアル
<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1309.1>
- Sun Java System マニュアル
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys.05q4#hic>
- Sun Java System コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunjavasystem/sjsservicessuite.html>
- Sun Java System ソフトウェア製品およびサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System ソフトウェアサポートサービスおよび Knowledge Base
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun サポートおよびトレーニングサービス
<http://training.sun.com>
- Sun Java System 開発者向け情報
<http://developers.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://developers.sun.com/prodtech/support/>
- Sun ソフトウェアデータシート
<http://www.sun.com/software>

Copyright © 2006 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、このマニュアルで説明されている製品に含まれるテクノロジーに関する知的所有権を保持しています。これらの知的所有権には <http://www.sun.com/patents> に示される 1 つまたは複数の米国の特許、および米国および他の各国における 1 つまたは複数の特許または特許申請が含まれますが、これに限定されません。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

ご使用はライセンス条項に従ってください。

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンス規定に従って使用されており、米国および他の各国における SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。

その他の情報